



学校だより

さいたま市立大谷場小学校

<http://oyaba-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標

- ひとみが輝く子 —
かしこく
やさしく
たくましく

今月の生活目標

話をしっかり聞こう

こい ぎやくふう 鯉のぼりは、逆風に負けない

校長 三上 良正



入学式から1か月余りが過ぎ、さわやかな5月の風が肌に心地よい季節となりました。子どもたちは授業、休み時間ともに元気に過ごしています。また、おいしい給食が始まった他、各学年の参観・懇談会、健康診断、家庭訪問等、本校の教育活動も順調に展開されています。

ところで、今年も本校の校庭には、大谷場小学校育成会さんやPTAの方々の御尽力のもと、20匹以上の大きな「鯉のぼり」が掲揚され、その大きな姿を風になびかせ、私たちの目を和ませてくれています。そんな「鯉のぼり」を見て、ふと「鯉のぼりの由来は何だろう」と、疑問に思い調べてみました。

日本鯉のぼり協会のホームページを見ると、「鯉のぼりは、逆風に負けない」とあります。鯉のぼりは、順風では舞わず、強い逆風を受けて初めて大空に舞い上がります。困難があっても、それを乗り越えて、強く育ててほしいという親の気持ちに通じるものがあるようです。

もう少し詳しく調べてみると、中国の伝説と江戸時代の日本の風習が合わさったものだということがわかりました。

中国には、「鯉が龍門(黄河上流の、滝が連なる激流の場所)を、流れに逆らって登り切り、天に昇って龍になった、という伝説があります。鯉は、とても生命力が強く清流以外でも強くたくましく生きていけます。そして、中国では龍は皇帝の象徴とされていました。生命力の強い鯉(子ども)が、激流に逆らい、川を上り(困難に負けず進み)、龍になる(立派に成長する)ことから、鯉は、立身出世の象徴として日本に伝わりました。

そして、日本では、江戸時代、将軍家に男の子が生まれると、幟(のぼり)を立ててお祝いをする風習がありました。これが、一般の人々にも広まり、江戸時代の人たちは、この幟(のぼり)に立身出世のシンボル「鯉」の姿を重ね合わせました。その後、魔よけの吹き流しを付けたり、緋鯉(赤い鯉)、子鯉(小さい鯉)を付けたりと少しずつ形を変え、現在の「鯉のぼり」になりました。

子どもたちに「健康でいてほしい」「立派に成長してほしい」という願いは、保護者・地域の方々・教職員、皆同じです。その願いが込められた「鯉のぼり」であることを改めて学び、校庭に舞う「鯉のぼり」を見上げると、教育に対する思いもまたひとしおになります。2階玄関を入ったところには、「五月人形」も飾られています。毎日、この「五月人形」と「鯉のぼり」を見て、心新たに子どもたちに向き合っていきます。

(左上写真は、4/21に掲揚された「鯉のぼり」、右下写真は、4/10「入学式」の様子です。)

